



趣 意 書

謹 啓 貴台におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、日頃よりホッケー競技の発展について、格別の御理解、御支援を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、本県では2回の緊急事態措置区域となるなど、経済、社会など幅広い分野に多大な影響を受ける中、「東京2020オリンピック競技大会」が開催され選手の躍動する姿に多くの感動をいただきました。

本年は、国内最大のスポーツの祭典である、第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」が「夢を感動へ。感動を未来へ。」をスローガンに、県内各地で多くの競技などが開催されます。本年1月には、先行して同大会「冬季大会」が日光市を会場に、新型コロナウイルス感染症に関する「まん延防止等重点措置」適用下の中で感染防止対策を徹底して開催され、本県は天皇杯で第7位の成績を収め、前回から大躍進し好スタートをきりました。

そして、10月には本大会が開幕します。選手は、地の利を生かし今まで積み重ねてきた成果を思う存分発揮する機会であり、栃木県ホッケー協会としても夢に向かって突き進むその姿が多くの方に感動と笑顔を与えるとともに、ホッケー競技の魅力を最大限に発信するものと確信しております。

現在、新型コロナウイルス感染症の感染が収束していない状況ではありますが、同大会の総合優勝及び、栃木国体のレガシーとして更なるホッケー競技発展のため、引き続き次世代を担うジュニア選手等の育成に力を注ぐ必要があります。

しかしながら、その事業費等においては、関係機関からの協力及び援助はあるもの資金不足が懸念されるところです。

つきましては、この趣旨を御賢察の上、将来に向けた栃木県のホッケー競技の発展のため、御協賛を賜りたく何卒お願い申し上げます。

謹 言

令和4年3月吉日

栃木県ホッケー協会
会長 粉川 昭一